

# 図画工作

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
9	開隆堂出版	開隆堂◆	図工 105・106 305・306 505・506	A4 388	令和5年
116	日本文教出版	日 文◆	図工 107・108 307・308 507・508	A4 398	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 図画工作

### 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
12冊	開隆堂、日文

### 2 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の教育課程

#### 【教育課程編成の基本方針】

「次代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。」という教育理念を踏まえ、小学校から中等教育学校までの12年間を一体として捉え、児童・生徒の発達等に応じて柔軟な教育課程を編成する。

#### 【図画工作における学習指導の展開】

- (1) 物事を色や形などの視点で捉えることを、見たり触ったり、動かしたりするなど体験的に理解し、材料や用具を使って、創造的につくったり表したりすることができるように指導する。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、表現や鑑賞、言語活動などをおして創造的に発想や構想をしたり、情操を豊かにしたりするように指導する。
- (3) 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育む。

### 3 教科書の調査研究

内容（調査結果は「別紙」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠
a 協働的な活動の扱い	都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書 第2章 令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針
b 日本の作品や文化の扱い	同上
c 諸外国の作品や文化の扱い	同上

#### ※調査研究項目を設定した理由

- a 「令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針」（以下、「基本方針」という。）「7（1）ク 図画工作」の一つとして「協働的な活動をおして、自分にはない発想や構想を学び、多角的なものを見方を養うとともに、様々な表現方法があることに気づき、互いを認め、表現力や鑑賞力を高め合う。」と示されている。このことから、協働的な活動がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。
- b・c 「基本方針」の「1（2）教育方針」の一つとして、「日本の伝統・文化を理解し尊重するとともに、多様な価値観を受容し、主体的に国際社会に参画する力を育てる。」としている。このことから、日本の作品や文化及び諸外国の作品や文化がどのように扱われているかという視点で質的な調査をする。

発行者の番号 略 称		学年	9 開隆堂	116 日文
内 容	a 協働的な活動の扱い	第一・二 学年	(上巻) 「スタンプべったん」(造形遊び:P28・29)では、題材名の下に「えのぐを つけたら どんなかたちになるのかな。みんなで うつすと もっと たのしい。」という、導入の文書を記載している。児童が友達と材料を選ぶ様子や、友達のスタンプに自分のスタンプをつなげたり重ねたりする様子、見付けた形や色について対話する様子を掲載し、「みつけた かたちやいろの ことを はなしたり きいたりしよう。」という説明を付している。	(上巻) 「カラフル いろみず」(造形遊び・鑑賞P20・21)では友達と一緒に色水をつくり、色の変化を味わう様子や友達と一緒に「ミックスジュースやさんだよ。」「きらきらの さかなの かたちだよ。」等、イメージをもちながら色水を並べる児童の活動の様子とともに掲載している。
			(下巻) 「どンドン かわるよ 新聞紙」(造形遊び:P30・31)では、児童が協力して新聞紙をねじってつなげる様子をはじめ、複数の児童と一緒に活動している写真を掲載している。キャラクターが「活どうを つなげても いいね。」とコメントし、児童が協働的に活動できるようにしている。	(下巻) 「ダンボールに 入って みると!？」(造形遊び・鑑賞:P42・43)では、「かこんで へやにするんだ。」といったせりふと共に、複数の児童と一緒に活動し、大きな造形物をつくっている様子を掲載している。キャラクターが「どんな つかいかたをして いるかな。入ってみたいのは どれかな。」とコメントし、児童が互いの活動を鑑賞しながら学習を進めることができるようにしている。
		第三・四 学年	(上巻) 「ようこそ! アミアミワールド」(造形遊び:P30・31)では、友達と協力して大きな網を操作し、網同士を結んだり、遊具に巻き付けたりして活動する様子を掲載している。また、「みんなでつくろう ねん土ランド」(P34・35)では、題材名の下に「みんなのゆめやすきなことをもちよって、ねん土ランドをつくろう。」と記載し、児童が対話をしながら協働して「ねん土ランド」をつくる様子の写真を掲載している。	(上巻) 「クミクミックス」(造形遊び・鑑賞:P40・41)では、大きな段ボールを扱い、友達と協力して切り込みを入れて組み合わせるなどして活動する様子を掲載している。また、「絵を見て話そう」(鑑賞:P48・49)では、題材名の下に「かんじたことや考えたことを話し合いながら見ると、絵の見え方はどうなるかな。」と記載し、友達と話し合いながら、美術作品の見方を広げる児童の様子を掲載している。
			(下巻) 「わくわくランドで遊ぼう」(造形遊び:P34・35)では、題材名の上に「学校や校しゃのまわりには、おもしろい場所がたくさんあるね。みんなのアイデアで、たのしいアトラクションに変身させて。」と記載している。ページ内には、校舎の周りでおもしろい場所を見つけ、場所や材料と関わり合いながら友達と対話し、協力してアトラクションをつくる児童の様子を掲載している。	(下巻) 「コロコロガーレ」(工作・鑑賞:P14・15)では、協働してつくる「みんなでコロコロコースター」の紹介において、「きょうかして、コースをつくろう」という説明を付している。また、「体でかんしょう」(鑑賞:P24・25)では、「友だちときょうかしながら、ポーズをとろう。」「友だちの感じたことを聞いてみよう」等、協働的な活動を促す言葉や写真を掲載している。
		第五・六 学年	(上巻) 「地球まるごとたからばこ」(造形遊び:P34・35)では、題材名の下に「ならべたり組み合わせたり、みんなの力でもつとすてきな空間に変えていこう。」と記載し、児童の協働的な活動の様子を掲載している。 「つながる造形 美術館をたのしもう」(P52・53)では、美術館のプログラムに参加する児童の様子を掲載し、「気づいたことや気になったこと、考えたことについて話してみよう。」等、協働的な活動を促す説明を付している。	(上巻) 「笑顔が生まれるしかけ」(工作・鑑賞:P38・39)では、児童が友達と一緒に、いつも使っているものに形や色の仕掛けを加えて楽しくする活動を掲載している。また、「光と場所のハーモニー」(造形遊び・鑑賞:P42・43)では、いろいろな材料や場所に光を当ててできた形を友達と一緒に味わう様子や、友達と協働して奥行きのある空間をつくる様子を掲載している。
			(下巻) 「ゆらめきファンタジーワールド」(造形遊び:P14・15)では、「友だちと協力してたのしく活動する。」を学習のめあてとして、児童同士が関わって造形遊びをする様子を掲載している。また、「ドリームカンパニー」(工作:P48・49)では、題材名の下に「できたらいいなと思うアイデアをつめこんで、夢の新製品をみんなで考えてつくろう。」と記載し、児童が協力してアイデアを出し合う様子や、製品についてプレゼンテーションを行う活動を掲載している。	(下巻) 「この筆あと、どんな空?」(鑑賞:P24・25)では、「友だちと話すとき新しい発見があるね。」というコメントとともに、少人数のグループの対話により、児童が作品の見方を広げる様子を掲載している。また、「自然を感じる素敵な場所で」(造形遊び・鑑賞:P42・43)では、身の回りにある自然を感じる場所で活動し、どのような活動をしたのか友だちと伝え合う様子等を掲載している。

発行者の番号 略 称		学年	9 開隆堂	116 日文
内 容	b 日本の作品や文化の扱い	第一・二 学年	(上巻) 「ちいさな びじゅつかん からだをつかって」(P22・23)において「無題」(澤田真一)、「ライブペイントの さくひん」(ロッカクアヤコ)の2作品を掲載している。また、「つくって へんしん」(工作:P48・49)のコラムでは「いろいろな おまつり」として「さぎの まい」(京都府)を掲載している。	(上巻) 「アート・カードをたのしもう」(P66)のコラム「いろいろな びじゅつかんの アート・カード」で、群馬県立館林美術館(群馬県)のアート・カードを紹介し、カードを使用して学習する児童の様子を掲載している。
			(下巻) 「みつけたよ」(P2)において、切り絵アーティスト福井利佐の作品「ツバメ」、「ミンミンゼミ」を掲載している。また、「つんで ならべて びっくりしタワー」(工作:P18)のコラム「たてもものいろいろ」では世界遺産の建物として「姫路城」(兵庫県)を掲載している。	(下巻) 「きょうかしよ びじゅつかん からだで 見つける かたち・いろ」(P44・45)において、「ダンボールのどうくつ」、「ぐねぐねブチブチ」(PLAY! PARK 東京都)、「実の音」(大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015 新潟県)、「弾む水の天才ケンケンパ」(チームラボ)、「おくりもの:未知のポケット2」(箱根彫刻の森美術館 神奈川県)等、複数の日本の美術館等の展示作品を紹介している。
		第三・四 学年	(上巻) 「できたらいいな」(P2)において、舞台美術家富澤奈美の作品「テーマパークのフロート」、「東京2020/パラリンピック開会式のようす」を掲載している。また、「小さな美じゅつ館 表し方を考えて」(P26・27)では、「ひまわり」(岩下哲士)、「向日葵」(葛飾北斎)を掲載している。さらに、「みんなのギャラリー」(P56・57)では、山口県下関市の「ふく風」等、日本の伝統的な工芸品や芸術、文化を紹介している。	(上巻) 「教科書びじゅつかん しぜんの色」(P24~29)では、日本の土を使用した「土のライブラリー」(栗田宏一)及び、土を集める栗田さんの活動を紹介している。併せて、「春秋(双幅)」、「菱田春草」、「不喰芋と蘇鐵」(田中一村)、「散り紅葉」(東山魁夷)を掲載している。「広がる図工 みんなとつながる」(P52・53)では、「子ども造形パラダイス」(愛知県)等、児童作品を屋外や地域施設等に展示する取組を紹介している。
			(下巻) 「力を合わせて」(P2)では、竹工芸家/アーティスト 四代目辺竹雲齋の作品「循環-RECIRCULATION-」を掲載している。また、「つながるぞうけい」(P54・55)では、町や公園に設置されている作品として「三つの帽子」(草間彌生)、「Books on the Garden」(エルド吉水)、「どろんこ坊や」(安藤泉)を掲載している。また、「地いきの学校や人々」として、「造形おかざきっ子展」(愛知県岡崎市)等、児童作品を屋外や地域施設等に展示する取組を紹介している。	(下巻) 「教科書美術館 体の形」(P22・23)では、「金剛力士像 吽形」(湛慶、定覚 他)、「体でかんしょう」(鑑賞:P24・25)「風神雷神図屏風」(俵屋宗達)等、伝統的な日本の美術を複数掲載している。また、「教科書美術館 光から生まれる形・色」(P42・43)では、「10番目の感傷(点・線・面)」(クワクポリョウタ)、「PIKAPIKA ワークショップ」(トーチカ)等、影や光を利用した作品で、2000年以降に制作されたものを複数掲載している。
		第五・六 学年	(上巻) 「小さな美術館 動きやリズムを感じて」(P38・39)において「無題(フラフープ)」(鬼頭健吾)、「小さな 美術館 作品の世界に入りこんで」(P46・47)において「DNF:暗夜行路 眠れない町」(横尾忠則)を掲載している。また、「みんなのギャラリー」(P56・57)では、「岩槻人形」(埼玉県さいたま市)、「一式かざり」(島根県出雲市)、「獅子頭」(熊本県熊本市)等、日本の伝統行事に関連する工芸品を紹介している。	(上巻) 「広がる図工 美術館へ行こう」(P56・57)では、富山県立美術館「オノマトベの屋上」(佐藤卓 富山県)等、日本国内の美術館に展示されている作品や、「シャドウ・スティックの森 三角形の影と陰」(大分県)等、美術館と連携した児童の活動の様子を複数掲載している。また、巻末に日本の作品を複数掲載した「ミニ・アートカード」を添付している。
			(下巻) 「小さな 美術館 画面の迫力を味わって」(P24・25)において「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」(葛飾北斎)、「風神雷神図屏風」(俵屋宗達)、「遊虎図」(丸山応挙)等、日本の伝統的な美術作品を複数掲載している。また、「みんなのギャラリー」(P56・57)では、「江戸扇子」(東京都江戸川区)、「雄勝硯」(宮城県石巻市)等、日本の伝統の技による工芸品を紹介している。	(下巻) 「教科書美術館 受けつがれてきたきた形」(P38)では、「朝顔図屏風」(鈴木其一)等美術作品の他、切り細工(東京都)等、地域の伝統工芸品を複数掲載している。また、「もようから見つけて」(鑑賞:P39)では、「七宝」、「麻の葉」、「青海波」等、伝統的な文様や、「アットゥシ(背面)」(北海道)、「黄色地牡丹尾長鳥霞文様紅型縮緬袷衣装(背面)」(沖縄県)等、伝統的な文様を配した衣装を掲載している。

発行者の番号 略 称		学年	9 開隆堂	116 日文
内 容	c 諸外国の作品や文化の扱い	第一・二 学年	(上巻) 「ちいさな びじゅつかん からだをつかって」(P22・23)において、「パタゴニアの どうくつへきが」(アルゼンチン)を掲載している。また、「つくって へんしん」(工作:P48・49)のコラム「いろいろな おまつり」では、「かめんぶどうかい」(イタリア)を掲載している。	(上巻) 「せんせい あのね」(絵・鑑賞:P24・25)では、コラムとして「がいこくの ともだちの え」を掲載し、タイの児童作品「どうぶつえんで」を掲載している。
			(下巻) 「つんで ならべて びっくりリタワー」(工作:P18・19)のコラム「たてもの いろいろ」では世界遺産の建物として、「シャルトル大聖堂」(フランス)を掲載している。また、「どうぶつさんと いっしょに」(絵:P24・25)のコラム「外国の 友だちの 絵」では、台湾の児童作品を掲載している。	(下巻) 「こんな こと あったよ」(絵・鑑賞:P26・27)では、コラムとして「がいこくの ともだちの え」を掲載し、マレーシアの児童作品「お正月」を掲載している。また、「きょうかしよ びじゅつかん からだで 見つける かたち・いろ」(P44・45)において、「スイミング・プール」(レアンドロ・エルリッヒ アルゼンチン)、「オクテトラ」(イサム・ノグチ アメリカ)を掲載している。
		第三・四 学年	(上巻) 「小さな美じゅつ館 表し方を考えて」(P26・27)では、ひまわりを描いた作品として、「ひまわり」(フィンセント・ファン・ゴッホ オランダ)、「ひまわり」(フェルナン・レジェ フランス)を掲載している。また、「えっへん！ わたしが主人公です」(鑑賞:P44・45)では、ジョアン・ミロ(スペイン)の作品、「耕作地」を児童が鑑賞する様子を掲載している。	(上巻) 「あの日ああの時の気もち」(絵・鑑賞:P20・21)では、コラムとして「外国の友だちの絵」を掲載し、ウクライナの児童作品「週末」を掲載している。また、「絵を見て話そう」(鑑賞:P48・49)では、「アルルカンのカーニバル」(ジョアン・ミロ スペイン)の作品を掲載し、児童が話し合いながら見方を広げる鑑賞活動を紹介している。
			(下巻) 「小さな美じゅつ館 形や色から ひらめいて」(P10・11)において、「アカハラシキチョウ5.5 X」(フランク・ステラ アメリカ)、「無題」(サム・フランシス アメリカ)を掲載しており、サム・フランシスについては、作品の制作風景も掲載している。また、「自然の色 どんな色」(鑑賞:P20・21)では、アンドレ・ドラク(フランス)の作品、「リウに架かる橋」を児童が鑑賞する活動を掲載している。	(下巻) 「教科書美術館 体の形」(P22・23)では、「木を伐る人」(フェルディナンド・ホドラー スイス)、「無題」(キース・ヘリング アメリカ)を掲載している。また、「教科書美術館 光から生まれる形・色」(P42・43)では影や光を利用した作品として、「あなたに今起きていること、起きたこと、これから起きること」(オラファー・エリアソン デンマーク)を掲載している。
		第五・六 学年	(上巻) 「小さな美術館 動きやリズムを感じて」(P38・39)において「そよ風」(ブリジット・ライリー イギリス)、「サムライツリー」(ガブリエル・オロスコ メキシコ)を掲載している。また、「小さな美術館 作品の世界に入りこんで」(P46・47)では、「不安を与える女神たち」(ジョルジュ・デ・キリコ イタリア)、「飛翔」(アンドリュウ・ワイエス アメリカ)を掲載している。	(上巻) 「教科書美術館 身近なものを見つめて」(P22・23)において、「金魚」(アンリ・マティス フランス)を掲載している。また、「広がる図工 美術館へ行くこう」(P56・57)では、「ファブニール・ドラゴンII」(アレクサンダー・コールダー アメリカ)、「あなたこそアート」(チェ・ジョンファ 大韓民国)等、日本に展示されている諸外国の作家の作品を紹介している。さらに、巻末に諸外国の作品を多く掲載した「ミニ・アートカード」を添付している。
			(下巻) 「見て感じて わたしの表現に」(絵:P28・29)において「ブーヴィルの断崖の散歩」(クロード・モネ フランス)、「記憶の固執」(サルバドール・ダリ スペイン)、「XI 空中ブランコ(コードマ兄弟)」(「ジャズ」より)(アンリ・マティス フランス)を掲載している。また、「小さな美術館 よさを感じて 取り入れて」(P30・31)において「光輪のある自画像」(ポール・ゴーギャン フランス)、「アルフォンシーヌ・フルネーズ」(オーギュスト・ルノワール フランス)を掲載している。	(下巻) 「この筆あと、どんな空？」(鑑賞:P24・25)では「星月夜」(フィンセント・ファン・ゴッホ オランダ)、「ジヴェルニーの積みわら、夕日」(クロード・モネ フランス)を掲載し、児童が対話を通して作品の見方を広げる活動を紹介している。また、「広がる図工 平和を願って」(P48・49)では「ゲルニカ」(パブロ・ピカソ スペイン)を掲載し、表現には、見る人にメッセージを伝える力があることを紹介している。

